

岡城址おかじょうしに立つたつ（松口月城まつぐちげつじょう）

昔むかしは 是これ 難攻なんこう 不落ふらくの 城しろ

今いま 看みる 罍壁るいへき 草蘿そうら 生しょうずるを

銀鞍ぎんあん 白馬はくば 何いずれの 処ところにか 尋たずねん

孤雁こがん 月つきを 掠かすめて 鳴ないて 声こえ 有あり

解説 岡城おかじょうは大分県竹田市に現存していた城で、武将緒方三郎おがたみさぶろう惟栄これとが源頼朝と仲違いをしていた弟、義経を迎えるため築城したと伝えられている。作曲家・滝廉太郎はこの地で育ち、岡城は荒城の月のモデルとされている。

語釈 ※罍壁るいへき||とりでの壁。城壁。※草蘿そうら||アブラナ科の多年草。※銀鞍白馬ぎんあんはくば||白馬に取り付けた銀製の鞍。※孤雁こがん||群れを離れて一羽だけにいる雁。※掠かすめ||今にも触れそうにして、す早く通り過ぎる。

通釈 昔の岡城は難攻不落の城であったが、現在の城壁には草蘿がはびこっている。源義経の為に築城したと言われているが、今後、銀鞍白馬の勇士が何れの処から訪ね来るのか。今は一羽の雁が声を発して月を掠めて行くばかりである。